

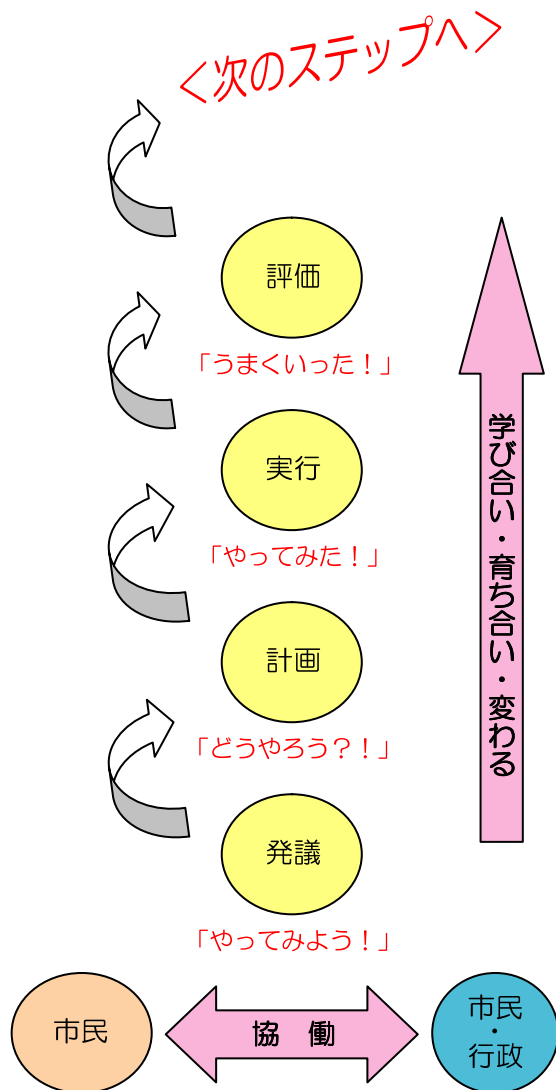
●協働のサイクル

“協働のまちづくり”は、お互いが相手を尊重し、労力、技術、情報、ノウハウ、資金など資源を持ち寄り、「計画・実行・評価」作業の形で進められます。

市民が主体的に参画し、行動するこの“協働”の輪を広め、かつ高めていくことが大切です。

●参加から参画へ

行政にあっては、「住民へ一方的に事業を依頼し、サービスを提供するといった一方通行的な関係」から、「お互いの立場をともに理解し合い、尊重し、対話を通じて共通の目的を達成する双方向の協働関係」を目指すことが必要です。そのため、住民にとって受動的な参加だけにとどまることなく、計画から実現まで、能動的に参加することのできる「市民参画社会」を実現することが必要です。



『協働のサイクル』の図

コ ラ ム

今、なぜ“協働”なの？

「都市化の波」を受けて、隣人の顔も知らないなど「コミュニティの希薄化」が進行しています。地域社会での「心のふれあい」や「助け合い」が薄れ、また、「住民や地域が主体的に担ってきたまちづくりの仕組み」が次第に失われつつあります。そして広い分野で「行政への依存傾向」が進むと同時に「行政の肥大化」を招いてきました。

一方、「住民ニーズやライフスタイルの多様化・個別化・複雑化」が進む中、「行政だけではきめ細かな社会サービスの提供に限界」が提起されるようになりました。

また、「地方分権が進展」する中、魅力あふれる都市を築くためには、「地域の特性を活かしたまちづくり」「地域を知り、地域に愛着を持つ住民によるまちづくり」が必要です。

さらに、従来の市民参加型をさらに進めた「市民参画型」の行政運営の展開を求める声が高まっています。

これらの社会的課題やニーズに対応し、解決していく仕組みが、“協働のまちづくり”です。

「市民満足度や地域力を高め」、「明日の住民自治の確立」を目指す“協働のまちづくり”の推進は、21世紀の「新しい地方の時代」の条件とも言えます。